

京都外国語短期大学 学位記授与式 学長式辞（邦文）

平成25年3月20日 中ホール（R741）

卒業生ならびに保護者の皆様、森田嘉一理事長・総長、ご来賓の皆様、本日は卒業式にご臨席下さいましてありがとうございます。

2年間に及ぶ本学での厳しい試練を乗り越え、めでたく卒業の日を迎えられました卒業生諸君に祝福の言葉を贈らせていただけることを、大変うれしく光栄に思っております。

卒業生諸君は教室の外に広がる社会へ今まさに飛び立とうとしておられます。そして、諸君の心は希望に満ち、将来への期待と自信で輝いておられることと存じます。

さて、今日の私たちは、グローバルな世界に生きております。そしてグローバル化が進むにつれ、世界の国々はお互いの国をずい分身近に感じられるようになってきています。しかしながら、グローバル化がいかに進もうと、世界は武力衝突や意見の対立などで二分されたままなのです。

また、私たちは、生産性の向上と効率性の向上は無限の幸福をもたらすものだと思ってきました。そして、この二つの目標を何ら疑うことなくひたすらに追い求めてきたのです。けれどもその結果、世界は今、地球温暖化や環境汚染、さらには核の脅威といった危機的な問題にさらされてしまっているのです。

グローバル化や生産性・効率性の向上など、私たちが幸せになれると信じ、がむしゃらに追い求めてきたものは、求めれば求めるほど反対に、私たちから幸せを遠ざけていくのです。

どうしてこのような結果になってしまったのかと考えますと、今まであまりにもハード面の発展を追い求め、その中に生きる人々をないがしろにして、ずっと横においてしまった結果なのだと思います。

諸君の人生のターニングポイントである今日という日に、私がどうか覚えておいていただきたいと願いますことは、人生で、そして世界で大切なことは、競争や手段を選ばない効率性の追求ではなく、国を越え、人種の違いを越え、相手を思う心、気持ちだということです。そのためには、コミュニケーションが何よりも大切になってくるでしょう。

幸いにして、わが学園には“PAX MUNDI PER LINGUAS”すなわち「言語を通して世界の平和を」という誇るべき建学の精神があります。私たちはこの65年間、世界の平和に貢献すべく、この崇高なる理想の実現をめざしてまいりました。この建学の精神は、世界の人々が互いに手を取り合い、和していける世界を実現するという私たちの希望や意志を雄弁に表わしております。

最後に、卒業生諸君は、本日誇りを持って愛する母校、京都外国語短期大学を卒業されます。欧米社会では大学の学位授与式のことをコメントと呼びます。これは「新し

いことを始める」ということを意味しています。諸君はこれからも、何かを新たに始めるということを決して止めてはいけません。そういう意味で、本日は、生涯学び続けることの大切さを確認する絶好の機会です。生涯を通して学び続けることは喜びや幸福をもたらし、そしてなによりも人生における成功の鍵になると私は確信しています。諸君は命ある限り、人生を享受するために学び続けてください。

卒業生諸君、ご卒業本当におめでとうございます。諸君がこれから歩んでいかれますキャリア、またこれから築いていかれますご家庭に、喜びと愛と平和が訪れますことを心からお祈りいたします。ご清聴ありがとうございました。

学長 松田 武